

私保連 とくしま



発行：徳島県私立保育園連盟
 発行人：会長 大和 忠広
 〒770-0943
 徳島市中昭和町1丁目2番地
 徳島県立総合福祉センター内
 tel. 088-654-4461
 fax. 088-656-1173
 印刷：グラント印刷(株)



もくじ

徳島県未来創生文化庁こども未来局 こどもまんなか政策課長挨拶	……P2
部会報告	……P3
『こおり、冷たい!』	……P5
いただきますを支えて	……P6
健康な笑顔を守って看護師さん	……P7
「徳島県私立保育園連盟研修会」を開催しました!	……P8
徳島県青年保育者連合会	……P9
高校ほか、学生の皆さんへ	……P10



(9面に続く)

御 挨 拶



徳島県未来創生文化部こども未来局 こどもまんなか政策課長 大井 文恵

徳島県私立保育園連盟の皆様には、日頃より本県の児童福祉行政、とりわけ保育行政の推進に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、こどもの安全・安心が何よりも優先される保育施設におきましては「こども主体」、「こどもの権利擁護」という保育の基本を再確認した上で、日々の保育を振り返り、こどもの最善の利益を守るため、一人ひとりの保育士の資質向上が強く求められております。

このような中、県では、令和5年度の定期監査において、各施設の「不適切な保育」の未然防止に向けた体制整備や、日々の保育実践の振り返りの状況等を重点的にお聞かせいただきました。

その結果、多くの施設では、昨今の保育現場で発生している虐待等の事案を教訓とし、施設内における話し合いの場を増やしたり、研修の充実に取り組む等、未然防止に向けた体制整備に積極的に取り組んでいただいていることに、この場をお借りして感謝申し上げます。

国においては、昨年12月に策定されました「こども未来戦略」に、令和6年度から保育士の配置基準の一部を75年ぶりに見直すことを盛り込むなど、保育士の処遇改善に向けて大きく動き出しています。

県におきましても「保育士・保育所支援センター」の機能充実を図る等、保育人材の確保に向けた取組を進めていくとともに、市町村との緊密な連携の下、保育人材の育成やスキルアップをはじめ、子育てを取り巻く多様な課題に積極的に取り組んで参ります。

乳幼児期は心身の発達や人格の形成に極めて重要な時期と言われております。皆様方におかれましては「こどもの健やかな育ち」を支える「こどもまんなか社会」を実現するため、県の取組に対し、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ワンダーブックの保育用品
世界文化社販売株式会社

〒770-0802 徳島市吉野本町3丁目16番地2
TEL(088)653-7607
FAX(088)653-7874

Gakken すべては子どもたちの笑顔のために

(株)学研エリアマーケット徳島営業所

〒770-0046 徳島市鮎喰町1丁目24番3

Tel : 088-638-0017

Fax : 088-638-0019



部 会 報 告

調 査 部

原田真三子

令和5年度の調査部会の活動報告をさせていただきます。7月の定期総会において主に定員割れについて、また部員の方々からICTの導入と活用についてなど、少子化になり問題点として取り組む課題と現場の日常における業務負担をそれぞれの園がどのように取り組み、問題点として抱えているかを調査していくという方針をもって進めています。

定員割れについては、「地域に子どもが少ないのではないかな？人材不足ではないかな？」という意見がありました。少子化になり難しくなっている現状に何が必要かを考えさせられます。

また、「ICTを導入して業務改善につながっているかな？負担軽減になっているかな？」という声もありました。働き方改革が言われている中で、保育の質を高めつつ業務改善に繋がることを願っています。

情報交換の資料作りとして、定員割れの状況の原因と今後についてアンケート調査をしていく予定です。業務改善については、ICTの導入から種類や使い方などの項目を交えながらアンケートをとり、結果も踏まえて資料を作成していく予定です。

コロナ禍により延期・中止となっておりました施設見学を計画中です。新設園・グループ園などいろいろな園が地域性や独自の特性を生かし、子ども達が目を輝かせ過ごすことのできる園として創意工夫されている部分や魅力あふれる環境を拝見させていただけたらと思っています。

保育の日常では、重大事故・不適切保育について話題となっておりますが、子どもの理解と把握を徹底し、職員一人一人が危機意識をもって安心・安全な保育に取り組んでいきたいと思っています。また、部員の方々との情報交換から見えてくる課題にも目を向けながら、より良い時間としての部会開催になればと思います。

今後も皆様のご指導をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。(久勝かもめこども園)

保育研修部

黒田 信雄

2023年度保育研修部会は、24名の部員で活動をしています。

10月3日、施設見学として八万南ひまわり認定こども園を訪問し、真新しい施設で随所に工夫をされている施設を見せていただきました。全保育室が中庭に面した開放感あふれる園舎でした。子ども達はお昼寝中でしたが、にぎやかに走り回る姿が想像できる素敵な施設でした。

1月26日、職員研修会を開催しました。講師に香川大学の松井剛太准教授を迎え「保育が楽しくなる保育の記録とは」をテーマに徳島市シビックセンターを会場に開きました。75名の参加

があり、先生から「保育の記録」の新しい考え方を学びました。保育記録と言えば文章を中心に考えがちになりますが、「本来、記録は何のためなのか？記録を生かす(共有する)」という視点の問題提起がありました。保育者同士、子ども達と共有したり保護者と共有することでの保育の拡がりや振り返りに生かされる事例なども紹介していただき、良き学びの時となりました。部会活動そのものが研修の場だとの共通理解の下に部会活動を続けています。

(光の子保育園)



総務部

松下 直弘

総務部会の報告ですが、11月は神戸市で行われた全国事業部長会に出席し、1月12日には部会を開催しました。部会では、能登半島地震における支援募金の検討を行いました。

また、定期総会・研修会の参加費や開催方法などについての協議を行い、研修会をセミナーとして、園長に加えて職員も参加できる形に変更し、子どもの豊かな育ちに向けた研鑽の場となることを目的に開催することになりました。

12月18日に開催した徳島県私立保育園連盟研修会では、各種保険の説明の機会をいただき、ありがとうございました。保育活動を安全・安心に取り組めるよう保険の加入は必須であり、加入についてのご検討をお願いいたします。

これから、保育施設は、新年度を迎えるための忙しい時期を迎えますが、体調には、十分に留意されご活躍ください。
(のぞみ保育園)

広報部

谷口 恵美

はじめに、「能登半島地震」にて被害に遭われた皆様にこころよりお見舞い申し上げます。

改めまして、広報部会の活動の報告をいたします。今年度、「私保連とくしま第40号」は「全国私立保育研究大会 徳島大会特別号」として、徳島県未来創生文化部こども未来局 こどもまんなか政策課長 大井様、徳島県私立保育園連盟会長（全国私立保育研究大会徳島大会本部長） 大和様、徳島大会実行委員会 実行委員長 若松園長様をはじめ各班の活動報告を発信することが出来ました。今回の「私保連とくしま第41号」は、各園の取り組みや各関連機関の情報などをお伝えすることができましたこと感謝いたします。広報部会につきましても、7月の定期総会で第一回の部会を、第二回は10月に部会を開催し「私保連とくしま第40号」の原稿検討会に参加した部員で行うことができました。

また、2024年のカレンダーの発行に際しましては、行事食やおやつの写真をたくさん提供していただきありがとうございました。充実した食育が子ども達の笑顔を育んでいると思いました。食育だけでなく保育のあらゆる場面においても、子ども達の笑顔を絶やさぬようにと思う日々です。今回のカレンダーにお寄せいただいた写真は全部で28園から提供があり各園1枚ずつ掲載させていただきました。全ての写真を掲載することはできませんでしたが、今後ともご協力いただきますようお願いいたします。そして会員の皆様には、広くカレンダーをご活用いただきたいと思います。

これからも広報紙を通して日々の保育に役立てていただけるような情報を発信していきたいと思っています。つきましては、広報活動に対するご意見、ご要望等ございましたら広報部までお寄せくださいますようお願いいたします。
(彩保育園)

幼児の豊かな生活環境をめざす
徳島チャイルド社

電話**088-674-6050**
FAX**088-674-8336**

〒779-3234 名西郡石井町石井字白鳥230

子どもにやさしい地球を残そう
ひかりのくに徳島有限会社

〒779-3404 徳島県吉野川市山川町川田869-4
TEL 0883(42)2220
FAX 0883(42)6300
〒770-0035 徳島市南佐古5番町2-37
TEL 088(652)0350
FAX 088(655)9066





徳島文理大学短期大学部 准教授 山越 明

私達は光や音など常時たくさんの『刺激』を受けながら生活しています。その刺激を目や鼻などの感覚器をとおして身体に加わっていると感じることを『感覚』といいます。私達には「視覚」「聴覚」「触覚」「嗅覚」「味覚」の五感に加え、揺れを感じる「前庭覚」それを修正する「固有感覚」と七つの感覚があり、すべての感覚は一人ひとりその感じ方が違います。

ある寒い朝の我が家の光景です。「氷、はっとるよ!」の一声で孫達が家から飛び出してきました。「さむい!」「いき、しろなる!」と言いながら最初に来た四歳の孫がバケツにできた氷を素手で持ち「おっきいよ!」と叫びます。その氷を触った五歳の孫は「つめたい!」と慌てて手袋を取りに家に入ります。三歳の孫は跳ねるように走ってきて氷にハイタッチして氷がパリーン。すかさず二歳の孫が氷のかげらを拾ってもう一度落としてパリーン。ここからは氷を見つけては割る遊びになり、割れた氷をバケツに集める遊びへと変わっていきました。手袋をして出てきた孫もいつの間にか手袋を脱ぎ捨て、素手で遊びに参加していました。

子ども達のチャレンジ精神にはいつも脱帽します。氷を触るのは冷たい。でも冷たいから楽しい。冬ならではの経験です。みんな私の血を引く孫ですが、氷に対する感覚は一人ひとり違ってきます。

『冷たさ』は『触覚』をとおして感じる感覚です。素手で氷をさっと持った孫は『冷たさ』に関して『鈍感』であり、すぐに手を引っ込めた孫は『敏感』なのかもしれません。『鈍感』な場合は、冷たさも平気ですから、氷を光に透かしたり、氷に花を載せたり、氷の端の引っ張りを取ったりといろいろな経験ができます。しかし『敏感』な場合は氷に触れようとしませんから、いつまでもその感覚に触れることができず“氷は冷たくて嫌なもの”となり、それが高じると『過敏』な状態になるかもしれません。孫の場合は他の孫のおかげもあり素手で氷を触って遊ぶことができたので一安心といったところでしょうか。

今、『過敏』と思われる子が増えてきています。七つの感覚の中で『視覚』と『聴覚』は感覚器の機能的な影響が大きいのでサングラスやイヤーマフなどの配慮が必要ですが、他の感覚は生活の中で培われていく感覚です。嫌な感覚にも逃れる(守る)だけではなく、挑戦する(経験する)ことの必要性を感じます。



聴覚過敏

視覚過敏

触覚過敏

味覚過敏

嗅覚過敏





いただきますを支えて



すみれ保育園 管理栄養士 谷井亜由美



すみれ保育園は、鳴門特産品の中の一つであるれんこん畑に囲まれる豊かな自然の中にあります。子ども達は散歩でれんこん畑を見に行ったり、夏の水遊びではれんこんの大きな葉っぱを使って遊んだり、子ども達にとって身近な存在です。

食育活動の一つとして、4・5歳児がれんこん農家さんのところへ見学に行き、れんこんを掘る様子を見たり、持たせてもらったり普段できない体験をしました。畑の中かられんこんが出てくると「れんこん出てきた!」と嬉しそうな声があがり、帰り道で畑を見ては「これもれんこんかなあ?」と興味津々でした。

そしてなによりれんこんが大好きな子ども達。新しく考えたれんこんメニューも好評でした。今後もれんこんを使用した給食を提供するように心がけていきたいと思っています。

コロナ禍のいろいろと制限されてきた中で、できることを見つけながら行った食育活動。体験を通して子ども達は食事がよりおいしいと感じることができ、子ども達の心と身体を成長させると実感しました。食育の大切さを深く感じ普段の食育活動を改めて見直し、子ども達の「おいしい」のために日々の給食業務に取り組んでいきたいと思っています。



子ども達に人気のれんこんメニュー



れんこんサラダ



麻婆れんこん丼



れんこんのきんぴら



勝浦みかん保育園 尾島 勝子

昨年（令和5年）の6月から、勝浦みかん保育園の看護師として勤務しています。私の子どもは現在成人していますが、幼かったころは仕事をしていたので、保育園には大変お世話になってきました。子育てをしながら仕事を続ける上で保育園の存在は、私だけでなく子ども達にとっても大きな支えとなっていました。

子育ては無事に卒業しましたが、子どもが好きな気持ちには終わりが来ることはなく、縁があって子ども達とかかわる看護師として日々過ごしています。元気一杯の子ども達に、たくさんの笑顔をもらいながら、このかけがえのない笑顔を守るために、今度は支える側として精いっぱい子ども達と向き合い、寄り添ってあげたいなと感じています。

看護師の仕事としては、まず園での怪我の応急処置や病児保育があります。病児保育は保育中に体調が悪くなった園児を、保護者と連絡を取りながら、お迎えに来られるまでの間、保健室で様子を見ています。また家庭との連携として、年6回「ほけんだより」を発行しています。そして月1回の「看護の日」には、子ども達の保健指導を行っています。毎回真剣な表情で話を聞いてくれるので、興味関心を大切にしながら安全で健康に過ごすことができるように取り組んでいます。

今年もインフルエンザやコロナウイルス感染症などが猛威を振るう中、園での感染予防はもちろんのこと、それぞれの家庭でも感染予防に努めていただき、協力することで、感染を最小限に止めることができるように努めています。

これからも保護者の皆様との連携を取りながら、子ども達だけでなく職員の健康も守っていきたいと思っています。



フレーベル館

保育用品／キンダーブック／児童図書

株式会社フレーベル館 徳島支店

〒770-8007

徳島県徳島市新浜本町2-3-50 坂東新浜ビル3号室

TEL 088-663-6338 FAX 088-663-3396



こども環境の未来をつくる



シャクエツ

徳島店

徳島市末広1丁目4-14

TEL 088-626-2110

FAX 088-626-2416

子どもの笑顔∞まけまけいっぱい～子どもが真ん中の社会を目指して～ 「徳島県私立保育園連盟研修会」を開催しました！

去る12月18日(月)、徳島グランヴィリオホテルにて、子どもの笑顔∞まけまけいっぱい～子どもが真ん中の社会を目指して～「徳島県私立保育園連盟研修会」を、徳島県私立保育園連盟・徳島県(主催)、徳島県保育事業連合会(共催)として開催しました。

研修会では大和忠広会長と徳島県未来創生文化部こども未来局こどもまんなか政策課 大井文恵課長の挨拶の後、「重大事故・不適切保育を起こさないために～子ども主体の保育で子どもの命を守る」とのテーマで、駒沢女子短期大学 猪熊弘子教授の講演が行われ、徳島県内の保育施設職員・関係者234名が熱心に受講されていました。

子ども主体の保育を実践すること、人権擁護のためのセルフチェックなどを通して日々見つめ直すことや不適切な保育は重大事故につながる可能性があるとのことを学び、子ども一人一人に関わる私達保育者の責任について改めて学ぶ研修会となりました。

閉会にあたり、大泉真二郎副会長より「徳島県から不適切保育を出さないとの強い思いで、日々の保育を行っていきたい」との挨拶を行いました。

研修会に引き続き開催した「第65回全国私立保育研究大会徳島大会報告会」には全国私立保育園連盟 川下勝利会長をはじめ役員の皆様、事務局様にも御臨席いただきました。若松義明実行委員長をはじめ、各班の部長からも報告を行うとともに大会を振り返るハイライトムービーの上映もありました。最後に大和忠広大会本部長より、栃木大会への参加の呼びかけもありました。

5年を超えての準備期間を経て、大会を無事終えることができ、会員施設の皆様、そして御協力をいただきました、全ての皆様に改めて御礼申し上げます。



(1面から続く)

～「お絵かき」をとおして心のなかを…～

園長 戎谷 礼子

みどり保育園は、平成3年から、外部講師・株木裕子先生と一緒に楽しむ「お絵かき」を3歳以上児の保育の中に取り入れて、もう32年程になります。

もちろん絵が上手にかけられるようになることが目的ではありません。子どもは自分の心の中をことばで表現することが難しく、ことばにできないその思いや感情を絵の中のことばで語っているのです。心の中を素直に出せることが大切なのです。また、こうした体験があるかないかで、その後の豊かな感性の発達にも影響するようです。

7カ月頃になると、点から線をかくようになり、2歳頃に円をかくようになります。この頃からスクリブル（自分の感情を腕の動きで表現する）が始まってきます。この期間が長くなると、大人は形を教えようとしますが、「それはせずに待ってあげてほしい。思いのままに十分にさせてあげてください」と、先生は話されます。

表現の仕方は様々ですが、ゆったりとしている絵はその子がそういった状態であることを表しています。ストレスを感じていると筆を押さえつけたり、線がかすれたり、画用紙に色を重ねたり。画用紙に穴があくまで重ねていく子もいます。こんな時はストレスの原因を探るより、スキンシップを多くとってみてはどうでしょう。

色遣いもそれぞれ。子どものかいている様子やその絵を見ながら、心の中をちょっぴりのぞいて、今この瞬間からの保育へのヒントをいつもいただいています。

また、3歳から5歳にかけて脳を鍛える時期と言われています。ゲームやタブレットなどの映像からでなく、外に出て、実際の自然に触れて、何気なくアリやちょうちょ、若葉の息吹を、五感をフルに使って、見て、感じてみるのはどうでしょう。さらに子どもの目線だと、とてもよく見えるものがあります。それを子ども達と一緒に共感できる時間は何よりの宝物。その時間は、子ども達が大人になった時にきっとしっかり心を支えてくれるはずです。

たくさんのことを私達に教えてくれる「お絵かき」。

子ども達の心の奥にある気持ちを、私達大人は十分に受けとめなくてはなりません。

(みどり保育園)



徳島県青年保育者連合会 令和5年度 青年会議活動報告

徳島県青年保育者連合会 会長 大和 友就
青年会議 部長 大石 智弘
日保協担当 部長 盛 利彦

第65回全国私立保育研究大会徳島大会が盛大に終わってから早半年が過ぎました。

青年会メンバーで活動した、舞台進行班としての思い出。何年間にも渡っての打合せのなかには、楽しかった思い出ばかりではなく、言い争ったことも幾度とありましたが、メンバーの結束力は一段と深くなったことは間違いありません。

次回いつ当たるかは分かりませんが、その時には現青年会メンバーが主力となり先陣を切って行けると思っています。本当に良い経験・体験をさせていただきました。ありがとうございました。

さて、この結束力が高まったメンバーで、令和5年11月1・2日に開催されました「第42回全国私立保育連盟青年会議広島大会 こども達と平和な未来を～そりゃあ平和が一番じゃろお～」に出席し、研鑽して参りました。また、徳島大会へ参加して頂いた全国の先生方にもお礼をして参ったところです。そして、第66回の栃木大会のアピールにも一躍してきました。参加して頂きました先生方、大変ありがとうございました。

また「第43回全国私立保育連盟青年会議 東京大会 ～CORE～ こども達、ど真ん中」が令和6年9月5・6日、京王プラザホテルにおいて、開催されます。皆さまと一緒に参加できることを楽しみにしております。

高校ほか、学生の皆さんへ 保育園で働きませんか？

フレッシュ新任保育士さんから

鴨島中央認定こども園 森本 和瑚

私は小さい頃から年下の子どもと関わるのが好きで、小学校、中学校と年齢が上がるにつれ、保育士という職業に興味を持ち始めました。中学校の職場体験では、保育園を選び、子ども達と話をしたり遊んだりしていた保育士さんの楽しそうな笑顔を見て、私もいつか保育士になりたいと思うようになりました。高校を卒業して専門学校に進み、実習や授業を通して保育の楽しさや難しさを学びました。そして、実習でお世話になった本園に就職することができ、夢だった保育教諭になることができました。

2歳児の担任となり、4月当初は分からない事ばかりで余裕がなく、不安でいっぱいの毎日でした。子ども同士のトラブルに対しての声かけだったり、一人一人の対応が思うようにできなかったりと上手いかない時も多くありました。しかし、園にいる先輩方からアドバイスを頂き、助けてもらいながら少しずつ子ども達と、信頼関係を深めていくことができました。

保育教諭として働き始めてもうすぐ一年が経とうとしています。大変なことはもちろん沢山ありますが、それ以上に子ども達と過ごして楽しかったこと、嬉しかったことも沢山経験することができました。私は仕事をしている中で子ども達の笑顔を見る時間が一番好きです。私達にとっては何気ない日常も、子ども達にとっては、ワクワクやドキドキの連続です。見るもの、触れるものに興味をもち、楽しむ子ども達のキラキラした笑顔を見る度、私自身が幸せな気持ちになり、この職業を選んで良かったなと実感しています。

まだまだ毎日が学びの日々ですが、学べる事を楽しみ、子ども達と一緒に私も成長しながら日々の保育に取り組んでいきたいと思っています。



—編集後記—

春の日差しがきらめく頃となりました。今年度は、コロナ5類移行から少しずつ普段の生活に戻り、6月には大勢の方が徳島へ来県し第65回全国私立保育研究大会が開催されるなど、様々な研修が戻ってきました。国は「こども家庭庁」を創設し、こどもまんなか社会をめざして大きく変化しようとしています。

しかし、子どもや保育を取り巻く環境は厳しく、生まれてくる子どもは減少が続いています。保育士不足も大きな問題であり、全国で不適切保育など多く取り上げられました。明るい未来づくりに何が必要なのでしょう。まずは、子どもや保護者などの成長に大きな影響を与える私達一人一人の保育者が安心して仕事に取り組める環境づくりが必要ではないのでしょうか。2024年度には、最低基準の見直しが行われます。新資格「こども家庭ソーシャルワーカー」も創設されます。働きやすい職場環境を作り、保育士になりたい人を増やしたい。そのために、子どものそばにいる私達保育者がやりがいを持ち輝ける組織づくりが大切なのではないのでしょうか。

子どもを主体に考える保育を行い、保育者同士が仲間として風通しの良いコミュニケーションを図り、お互いを助け合えるチームワーク環境を更に整えたいと思います。

全国私立保育研究大会徳島大会の大会テーマ 子どもの笑顔∞まけまけいっぱい～子どもが真ん中の社会を目指して～素敵なテーマです。子どもが安心できる環境の中で、あふれる笑顔が徳島から増やしていきましょう。

広報部では、今後もこの「私保連とくしま」を通じて各園の保育者が繋がれるように、皆様の興味関心のある記事を発信していけるように努めて参ります。この度の「私保連とくしま第41号」の発行に当たり原稿や写真、執筆のご協力を頂きましてありがとうございました。これからも、様々なご意見・ご協力をよろしくお願い致します。

(いしいキッズ 佐藤 睦子)